北 海 道 浮 魚 ニ ュ ー ス

平成 21（2010）年度３号

2010 年 6 月 2 日

北海道立総合研究機構水産研究本部　函館水産試験場

ホームページ：http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

◎日本海スルメイカ北上期調査結果

５月 27 日から６月１日までの期間、松前沖から秋田県男鹿半島沖にかけての海域で、函館水産試験場調査船金星丸（151 トン、イカ釣機５台、集魚灯 20 灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

調査期間中のスルメイカ分布密度は昨年を下回った。魚体の大きさは昨年と同程度で過去５年平均に比べ小さい。

１．水温分布（図１）

漁獲調査点６点の表面水温は 10.1 ～ 13.0 ℃（昨年 11.7 ～ 15.8 ℃）の範囲にあり、全ての調査点で昨年を下回りました。水深 50 m の水温は 3.6 ～ 10.3 ℃（昨年 6.8 ～ 12.4 ℃）の範囲にあり、津軽半島西方沖の St.1 を除く全ての点で昨年を下回りました。

スルメイカの分布の目安となる水深 50m の水温は、沿岸で 10 ℃前後、沖合で４℃前後と昨年同時期と比較して全体的に２℃ほど低くなっており、沖合と沿岸の水温の差が大きい傾向がありました。

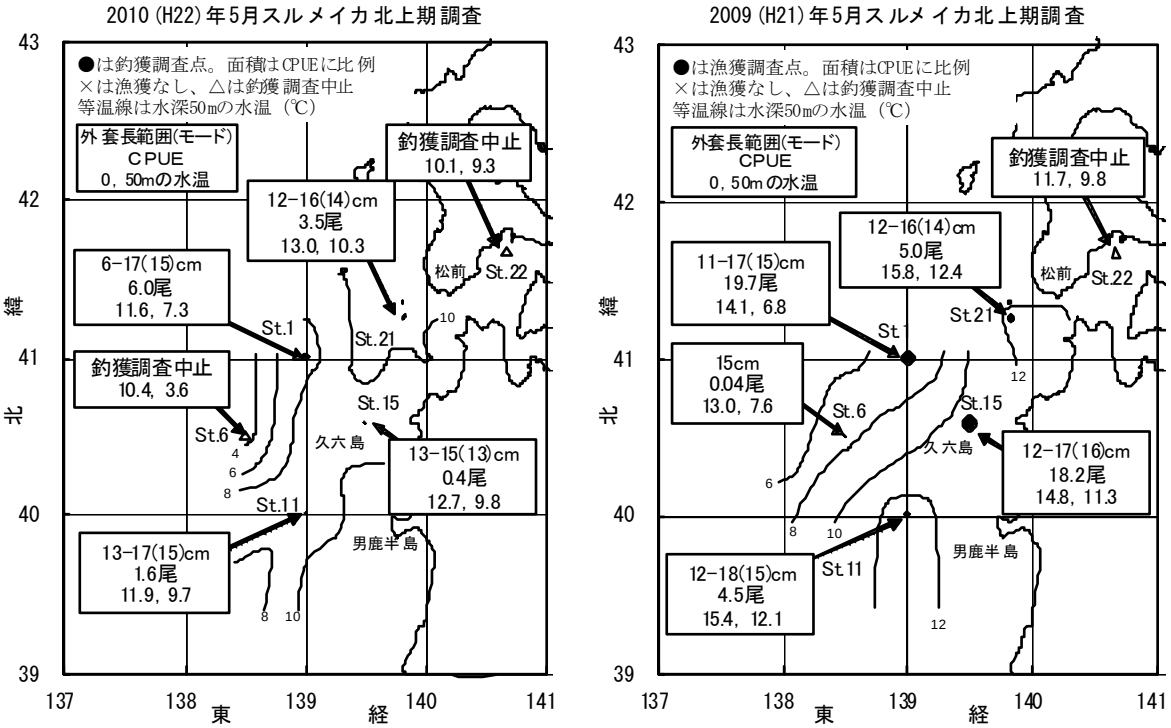

図1　スルメイカ漁獲調査結果（2009年との比較）

２．分布密度（図１、図２）

松前沖 St.21 以南の漁獲調査点５地点のうち、荒天のため調査を中止した久六島西方沖 St.6 を除く４地点の CPUE（2 連式イカ釣機１台１時間当たりの漁獲尾数）は 0.4 ～ 6.0（昨年 0.04 ～ 19.7）の範囲にありました。最も CPUE が高かったのは津軽半島西方沖の St.1（CPUE　6.0）でしたが、値としては昨年の同じ点（CPUE19.7）を下回りました。平均 CPUE は 2.5 で昨年（9.5）を下回り、2001 年以降で最も低い値となりました。

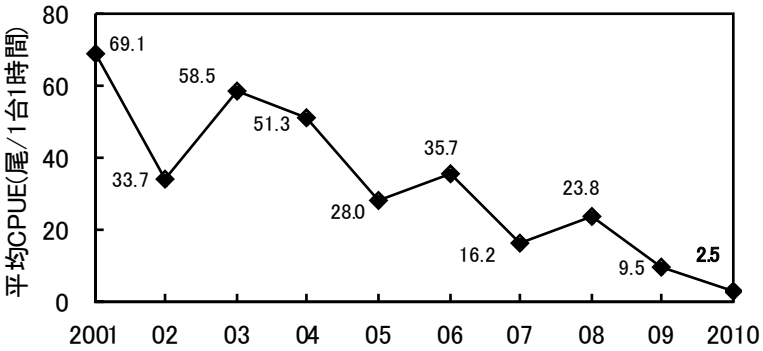

図2　平均CPUEの経年変化（2001年以降）

今回の調査で CPUE の値が低かった原因として、低水温による魚群の北上の遅れが影響していたと考えられます。

３．スルメイカの大きさ

調査海域全体でのスルメイカの外套長（胴長）の範囲は６～ 17cm（昨年 11 ～ 18cm）でした。最も多く漁獲されたイカの大きさ（モード）は昨年と同じ 15cm にあり、全体的な魚体サイズは過去５年平均より小型でした（図１、３）。各調査点のモードの範囲は 13 ～ 15cm（昨年 14 ～ 16cm）にありました（図１）。

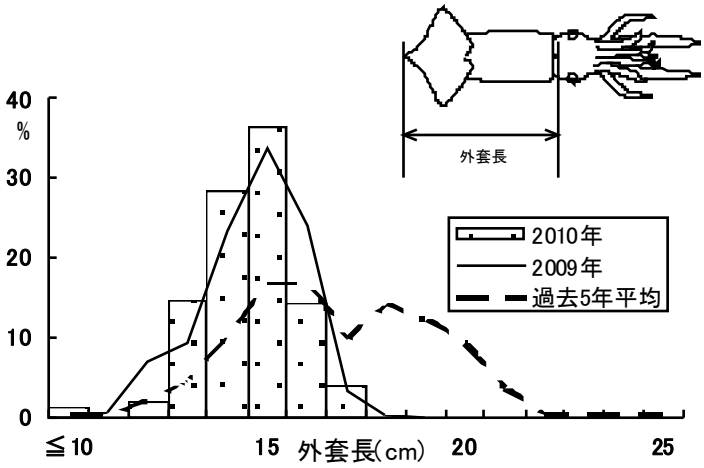

図3　調査海域全体の外套長組成

（文責：函館水産試験場調査研究部　TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991）